

活きている火山

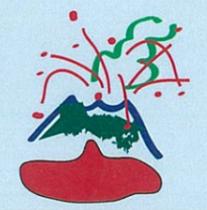


九州の活火山といえば、火の山「阿蘇」、鹿児島島のシンボル「桜島」、平成新山の「雲仙」などが有名です。でも、知っていましたか？くじゅう連山も今なお噴気をあげる現役の火山なのです。いまから25年前、平成7（1995）年の噴火では、千メートルの高さまで噴煙をあげ、それは大分市内からもはっきりと見え、熊本市でも降灰が確認されました。今号のくじゅうだよりでは、そんな九重火山の歴史とめぐみをたどってみます。

（注）今号の文中で、国立公園内の地域名山域名としてはくじゅうくじゅう連山と表記しますが火山名としては気象庁の記載にならって九重山・九重火山と表記しています。



りせず、岩峰やくぼ地の上り下りが多く、ハードなルートです。



およそ20万年前からと

①いつから噴火しているの？

考えられています。ただし、これは西にある涌蓋山を別の火山群とした場合です。（涌蓋火山群はおよそ100万年前から30万年前に活動した火山です。）

雲仙が50万年前（古期雲仙を含む）、阿蘇が30万年前から活動しているのと比べると、比較的若い火山と言えるでしょう。といっても、日本列島に人類が住みつく前から活動しているんですよ。

九重火山群の中では、西の狛師岳や黒岩山などが最も古く、およそ20万年前から9万年前、逆に新

しいのは東の端にある黒岳です。

②最大の噴火は？

くじゅう連山でこれまでに最大の噴火は、いまから5万4千年前の、「飯田火砕流噴火」とされています。積もった火砕流の厚さは最大で200メートルにもなり、北側の飯田高原や南側の瀬の本・久住高原を埋めつくしました。噴煙の高さは1万メートルにも達したと考えられます。

噴火場所ははっきりしませんが、いまの久住山・星生山・三俣山のあるあたりと推測されています。

こんな噴火がいま起こったら、と思うと、恐ろしいですね。

くじゅう連山で最も新しくできた火山は、東の端にある黒岳で、およそ1600年前とされています。（大船山の山頂部もほぼ同時期という説もあります。）

③いちばん新しい山は？

黒岳はくじゅう連山ではめずらしく、全体が深い森におおわれているので、古い山にも思えます。でも、実は一番若い新参者なので、次のような特徴が見られます。

・土壌の発達が悪く、大きな岩がたくさん目につく。岩の間に隙間が多く風穴もみられる。

・山体の開析が進んでおらず水の流れる侵食谷が少ない。黒岳の縦走は、尾根と谷がはつき

④くじゅうの下には何がある？

九重火山の下には、いろいろな時代の古い火山岩が埋もれています。中でも、くじゅうの北側、九酔溪の付近に中心を持つ直径8kmの埋没カルデラが知られており、地名から「猪牟田（ししむた）カルデラ」と呼ばれています。いまではその形跡を地上の地形から知ることはできません。

ここは、およそ100万年前の「耶馬溪火砕流」と90万年前の「今市火砕流」の2回の巨大噴火を起こした火山でした。堆積物は関東地方でも確認され、大阪府でも何と数十cmの厚さで積もっています。

九重火山と猪牟田カルデラは別々の火山とされていて、直接の関係はありませんが、すぐお隣どうしの関係といえるでしょう。九重山も、いつの日か、阿蘇や猪牟田のように巨大カルデラ噴火をおこすのでしょうか？

火山のめぐみ

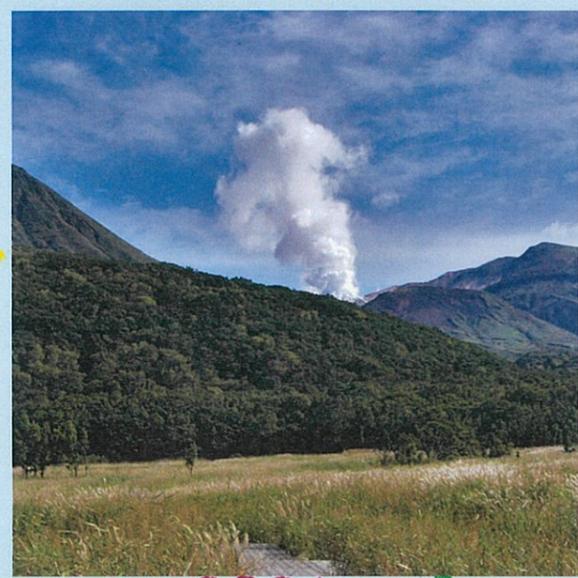


地熱

くじゅうでは数カ所で地熱発電がおこなわれています。中でも最大のが「八丁原地熱発電所」。その出力は11万キロワットで、一般家庭3万7千世帯分の電力をまかなえるそうです。

くじゅうの北側・飯田の人々は、硫黄山の噴気で天気を占ってきました。煙がまっすぐ上ると晴れ、手前に流れて立ち込めると雨とされます。筋湯温泉に近い噴気地帯の「小松地獄」では、噴気でたまごをゆでることもできます。

（災害復旧のため2020年7月～閉鎖中）



温泉

火山の恵みといえば温泉！くじゅう周辺では、法華院、釜ノ口、筋湯、湯坪、黒川、久住、七里田、長湯、湯平などいろんな温泉が湧いています。温泉成分を含んだ水＝くさい水⇒くさみ・くたみ⇒くすみ⇒久住となったとの説も！（異説もあります）

星生山の北東にある硫黄山のまわりでは、江戸時代に硫黄の採掘の記録があり、地域の貴重な産業となっていました。その後を受けて栄えた硫黄鉱山も、1971年をもって閉山となりました。いまでもその遺構が見られます。

火山のこわさ



噴気

鉱物

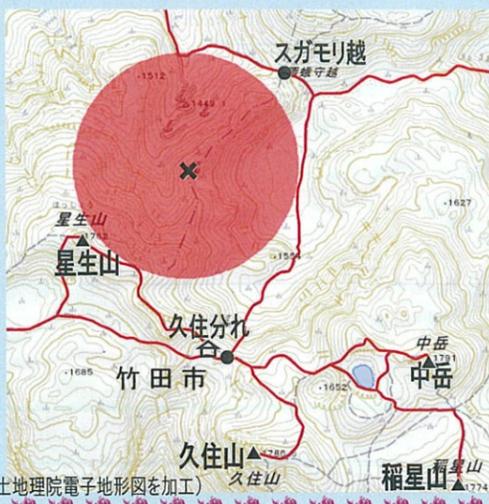


火山に登る

気象庁が発表する「噴火警戒レベル」は、現在「レベル1：活火山であることに留意」となっています。くじゅうの場合、硫黄山の火口からおおむね500m以内は立ち入り禁止です。右の地図の赤円の範囲があてはまります。

次の噴火は300年後かもしれないし、明日かもしれない。現役の火山だということを頭の片隅に入れて、登山を楽しみましょう。

2020年冬号



1995年の噴火

1995年10月11日、星生山の北側斜面で突如噴火が起こりました。噴煙の高さはおよそ千メートル、小規模な火山泥流も発生しました。この噴火は257年ぶりとされます。

火山にとって数百年の沈黙は一瞬のようなもの。硫黄山や星生山周辺では小規模な噴火が繰り返されてきました。久住分れの避難小屋のあたりも、3,700年前の水蒸気噴火の火口だそうですよ。